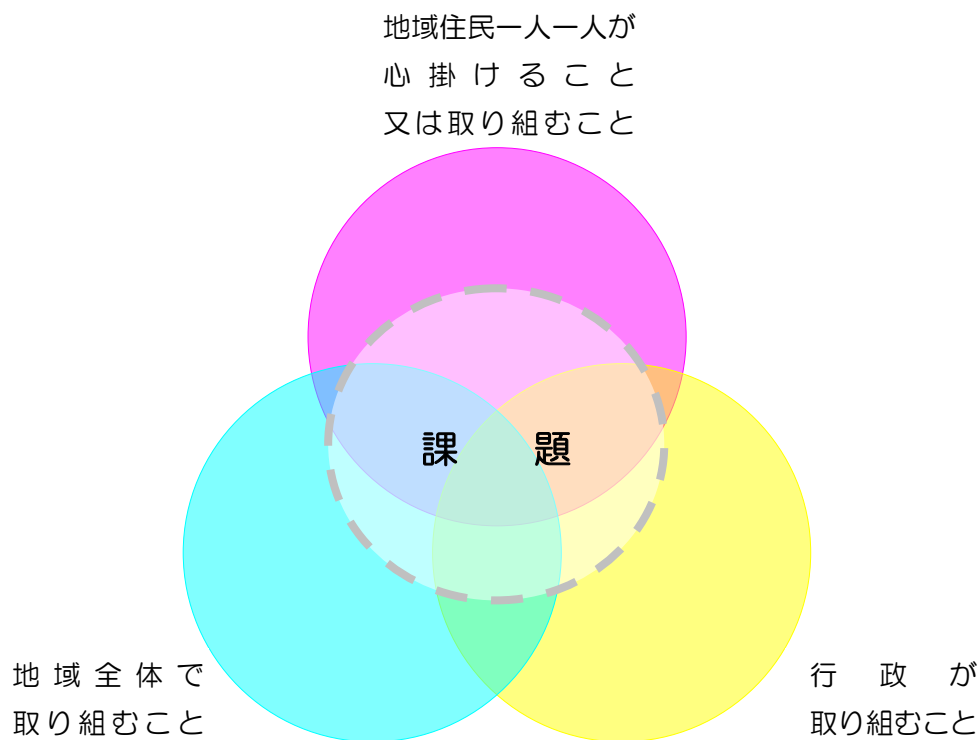


第4章 地域福祉を推進するための課題と対応

地域福祉座談会や地域福祉アンケートなどから明らかになった状況をもとに、岩国市の基本目標を達成するために取り組むべき課題を設定しました。

岩国市地域福祉計画では、地域住民、地域全体及び行政の三つの視点から、それぞれの課題に対する対応策を示し、それぞれが心掛けること又は取り組むことにより、基本目標の達成に取り組めます。

課題に対する対応のイメージ



基本目標1「地域福祉を推進するための基盤の整備」

1 隣近所の住民とのコミュニケーションの促進

課題

近年は、隣近所の住民との付き合いに対して閉鎖的で、人と人とのコミュニケーションが希薄になっているといわれます。地域福祉座談会でも、つながりが希薄化しているという意見が多く聞かれました。

内閣府が発表した平成19（2007）年版国民生活白書によると、地域と「部分的」なつながりを望む人の割合が増えており、また、近隣関係について全体的に希薄化し続けていると言える、と報告されています。

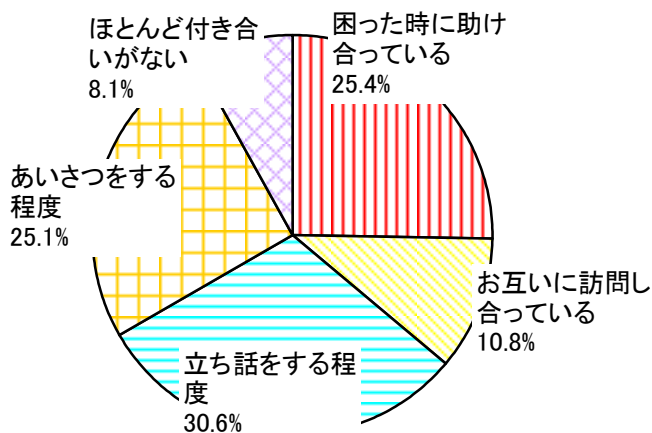
岩国市が実施した地域福祉アンケートの調査結果をみると、一概にいえたり比べたりできるものではありませんが、隣近所の住民と深い付き合いがない家庭は少なくない可能性があります。

地域福祉座談会意見より…

- ご近所とのつながりが薄れてきた。
- 集合住宅の方とは特につながりがいい。
- 近所の住民が亡くなったことや、転出したことを後になって知ることがある。

地域福祉アンケートより…

○近隣住民の方々とどの程度の付き合いがありますか？



対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

「遠くの親戚より近くの他人」という言葉もあります。隣近所の住民とのコミュニケーションを大切にしてみましょう。

- あいさつを心掛けましょう。
- 積極的なコミュニケーションを取ってみましょう。
- 隣近所の住民との付き合いを大切にして、つながりを深めましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域の行事や会合などにおいて、だれもが気兼ねなく参加できるような雰囲気づくりに努め、地域コミュニティを深めていきましょう。

- 地域のコミュニケーションづくりを目的に行事を実施してみましょう。
- 会合などにおいて参加者の意見を尊重し、何でも話し合える雰囲気づくりに努めましょう。

○行政が取り組むこと

地域コミュニティの必要性や重要性について啓発を行い、地域とのつながりの重要性について理解を広げていきます。

- 「地域コミュニティ」をテーマにした講演会や講座を実施します。
- 地域でのコミュニティの重要性について、パンフレットなどの配布により啓発を行います。

2 住民参加の促進

課題

地域がより暮らしやすい環境になるには、地域の団体が主催する行事などに対して、その対象となる多くの地域住民が参加することが必要となります。

地域福祉座談会では、若い世代の人を中心に地域行事への参加が少ないため、地域行事に対する過疎高齢化が進んでいる趣旨の意見が聞かれました。

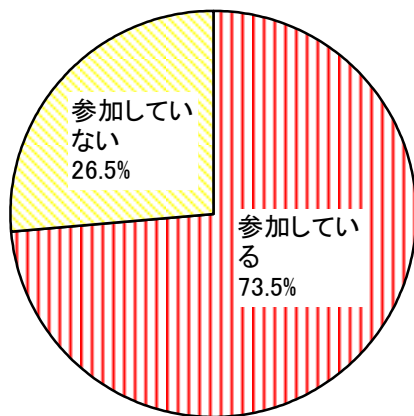
地域福祉アンケートによると、約7割の人が地域行事に参加していると回答していますが、参加していないと回答した人のうち、約6割の人が65歳未満の若い世代の人であることがわかりました。

地域福祉座談会意見より…

- 若い人の地域活動の参加が少ないため、行事がさびれている。
- 高齢者が多い地区のため、参加者が年々減少している。

地域福祉アンケートより…

○地域活動に参加したことがある人の割合
(アンケート結果を分析して算出)



○地域活動に「参加していない」と回答した人の年代割合

	65歳未満	65歳以上
割合	58.4%	41.6%

※割合は四捨五入しています。

対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域には、地域を良くするための様々な活動が行われています。家族や隣近所の住民と誘い合って、気軽な気持ちで地域活動に参加してみましょう。

- 地域の一員として、自分ができることについて考えてみましょう。
- 地域活動に気軽な気持ちで参加してみましょう。
- 家族や隣近所の住民を地域活動に誘ってみましょう。

○地域全体で取り組むこと

だれもが気兼ねなく地域活動に参加できるよう工夫し、雰囲気づくりに努めましょう。また、地域の団体、事業所などと協力してみましょう。

- 地域で参加促進の啓発を行いましょう。
- 地域のコミュニケーションづくりを目的に行事を実施してみましょう。
- 地域の団体、事業所などに協力をお願いし、一緒に活動しましょう。

○行政が取り組むこと

市民全体へ地域福祉への理解を深めていくための啓発活動を行い、地域活動への積極的な参加を促進します。

- 地域福祉への理解を目的とした講演会を実施します。
- ワークライフバランス（仕事と私生活の調和）を推進し、若い世代が地域活動に参加しやすい環境づくりに取り組みます。
- 小規模・高齢化集落などでは、ボランティアを活用した地域活動の推進に取り組みます。

3 地域での「助け合い」の促進

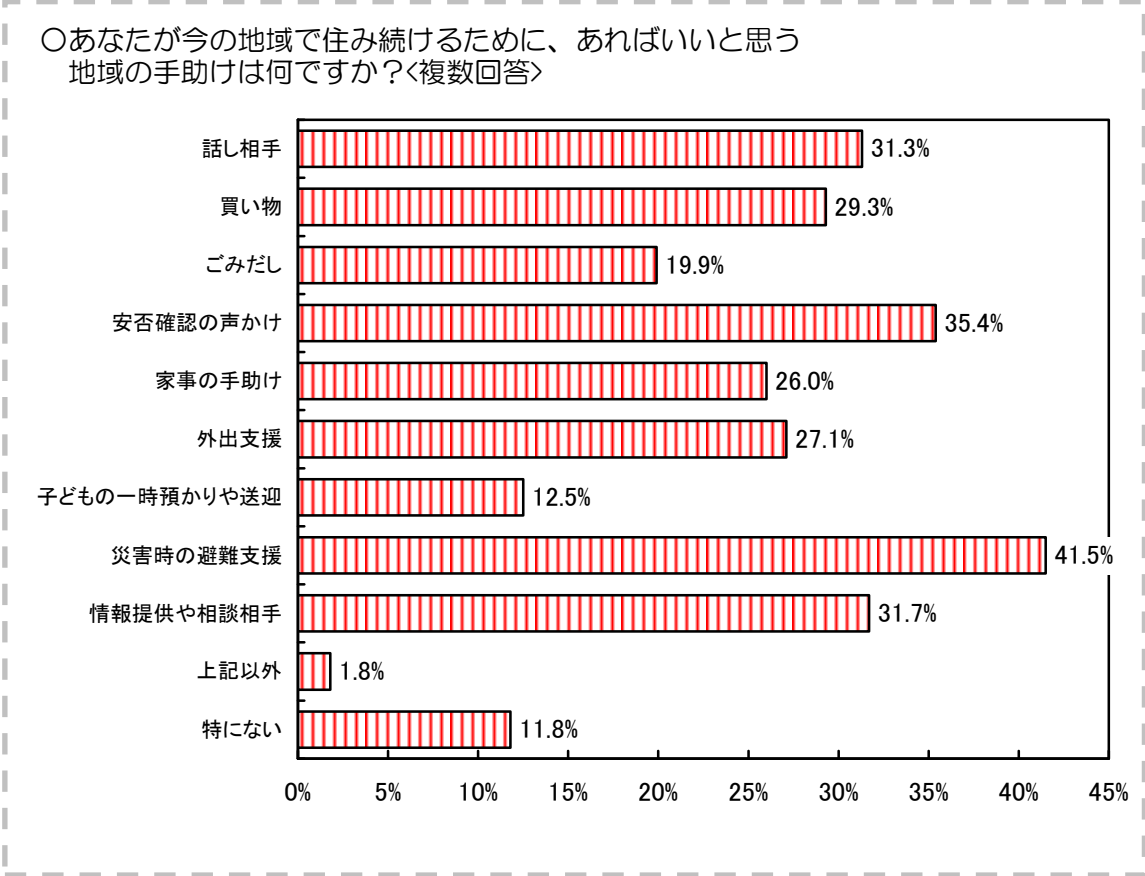
課題

ひと昔前は、田畑の耕作や冠婚葬祭のお手伝いなど、困ったことは地域の住民同士の協力により解決していました。また、食材のおすそ分けや生活用品の貸し借りなど日常生活においても、隣近所の住民との助け合う場面が当たり前のように見られました。

近年では、社会の発展に伴って、そのような場面での助け合う機会はあまり見られなくなりましたが、だれもが住み慣れた地域で安心して生活を送るためには、時には助けられ、時には助ける、といった地域住民同士の積極的な「助け合い」が必要です。

地域福祉アンケートをみると、地域で生活するためにあればいいと思う地域の手助けは、多様であることがわかります。

地域福祉アンケートより…



対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

今は元気でも、将来は助けられる立場になるかもしれません。地域は「助け合い」により成立していることを理解し、助け合う関係を築いていきましょう。

- 日ごろから隣近所の人々の状況を把握しておくよう努めましょう。
- いざというときのため、自分のことも地域の人には話しておきましょう。
- 困ったことがあれば、一人で悩まずに隣近所の住民や地域の団体を頼ってみましょう。
- 困っている人がいれば、積極的に助けてあげましょう。また、状況によっては地域の団体や行政機関に伝えましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域の人々の状態について把握し、地域住民の「助け合い」を支援しましょう。

- 「助け合いマップ」を作成するなど、地域の状況把握に努めましょう。
- 民生委員・児童委員、福祉員など相談できる人の周知に取り組みましょう。
- 地域で取り組むことが適切な課題は、地域全体で課題を共有し、協力して取り組みましょう。

○行政が取り組むこと

地域では解決できない課題や行政機関が提供する福祉サービスなどにより対応できる課題について、主体となって取り組みます。また、地域の「助け合い」の必要性について啓発し、助け合う文化を育みます。

- 岩国市全体の課題について、常に状況把握に努めます。
- 身近な場所での相談体制の充実を図ります。
- 「助け合い」の重要性について、講演会や講座を実施します。

4 地域の見守りの促進

課題

共働きなどで日中を留守にしている世帯や、高齢者のみで構成する世帯が増えている現状において、だれもが安心して生活を送れるために取り組む地域の見守り活動の役割は、ますます重要になってきています。

地域の見守り活動は、子どもの交通安全や犯罪防止、高齢者の安否確認など様々な役割を担っていますが、近年は児童虐待や悪徳商法、孤立死など、目が届きにくい深刻な問題も発生しています。

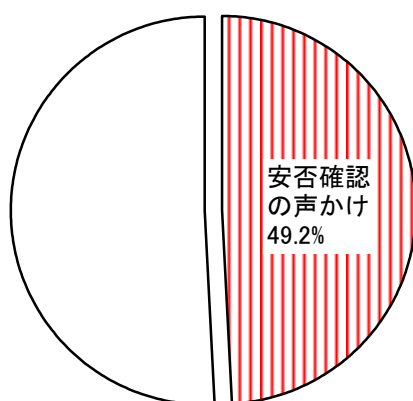
このような問題を防止するためにも、地域で連携し、一体となって見守る必要があります。

地域福祉座談会意見より…

- 顔見知りの高齢者はいるが、無事に過ごしているのか状況がわからない。
- 悪質な訪問者が来ることがある。
- 高齢者の中には、訪問されることを嫌がったり、電話に出ることを怖がったりする人がいる。

地域福祉アンケートより…

- 近所で困っている人に対して、自分ができること



対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

日ごろから、住民一人一人が防犯や高齢者の安否確認などに対して、高い意識を持つことが必要です。見守り活動の効果を高めるためにも協力していきましょう。

- 日ごろから隣近所の状況に異変がないか、意識しておきましょう。
- 安否確認や声かけをしてみましょう。
- 地域の見守り活動に参加してみましょう。また、見守りの対象となる住民は、地域の見守り活動に協力しましょう。
- 一人暮らし高齢者などを対象に岩国市が進めている緊急通報システム装置を設置してみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域住民が安心して暮らせるための見守り活動を充実させ、地域住民一人一人の見守りに対する啓発に取り組みましょう。

- 地域で見守りが必要な家を把握しておきましょう。
- 見守りが必要な家を定期的に訪問してみましょう。
- 地域の防犯教室を開催してみましょう。

○行政が取り組むこと

市民一人一人に対して、見守り活動に対する理解を深めていくための啓発や、一人暮らし高齢者などへの対策に取り組めます。

- 地域の見守りに関する講演会や講座を実施します。
- 緊急通報システム装置の設置の推進に取り組めます。
- 高齢者への訪問活動事業を促進します。

5 相談体制の充実

課題

福祉に関する悩みごとについては、山口県や岩国市において、様々な相談機関を分野ごとに設置することで相談体制の充実を図っています。

しかし、近年では家庭内の悩みごとについて、一つの問題に複数の事情が起因していることなどにより、一つの専門機関だけで対応できないケースが増えており、問題が複雑化しています。

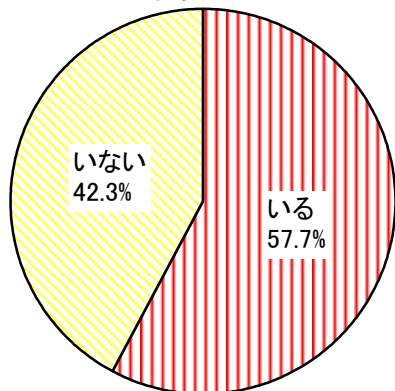
また、地域とのつながりが希薄化しているといわれる今日では、地域で相談できる相手がない、また、問題を抱えていることにだれにも気付かれないなど、問題が潜在化していることも考えられます。

地域福祉座談会意見より…

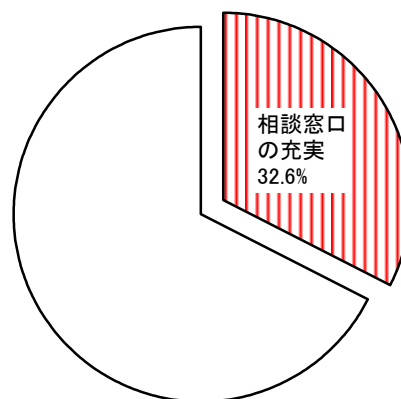
- 困りごとを相談する相手がない人は多いと思う。

地域福祉アンケートより…

○近隣に相談できる人はいますか？



○重要と思う岩国市の取り組み



対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

困ったときに一人で悩まないことが重要です。日ごろから相談できる窓口や相談できる人を確認しておきましょう。

- 専門的な相談窓口を確認しておきましょう。
- 地域で相談できる人を見つけておきましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域住民が相談しやすいよう相談窓口の周知を図ることや、相談体制の環境整備に取り組みましょう。

- 民生委員・児童委員、福祉員など地域で相談できる窓口の周知を図りましょう。
- 地域住民の相談に対して、地域全体で取り組むための推進体制を整備しましょう。

○行政が取り組むこと

困ったときに相談できる窓口の充実を図るとともに、複雑化している問題に対しても総合的に取り組んで解決を図ります。

- 相談機関や地域の相談窓口の周知を図ります。
- 市民が身近なところで相談できる体制の整備を図ります。
- 複雑化した問題に対して、相談機関で連携を図っていけるよう連携強化を図ります。

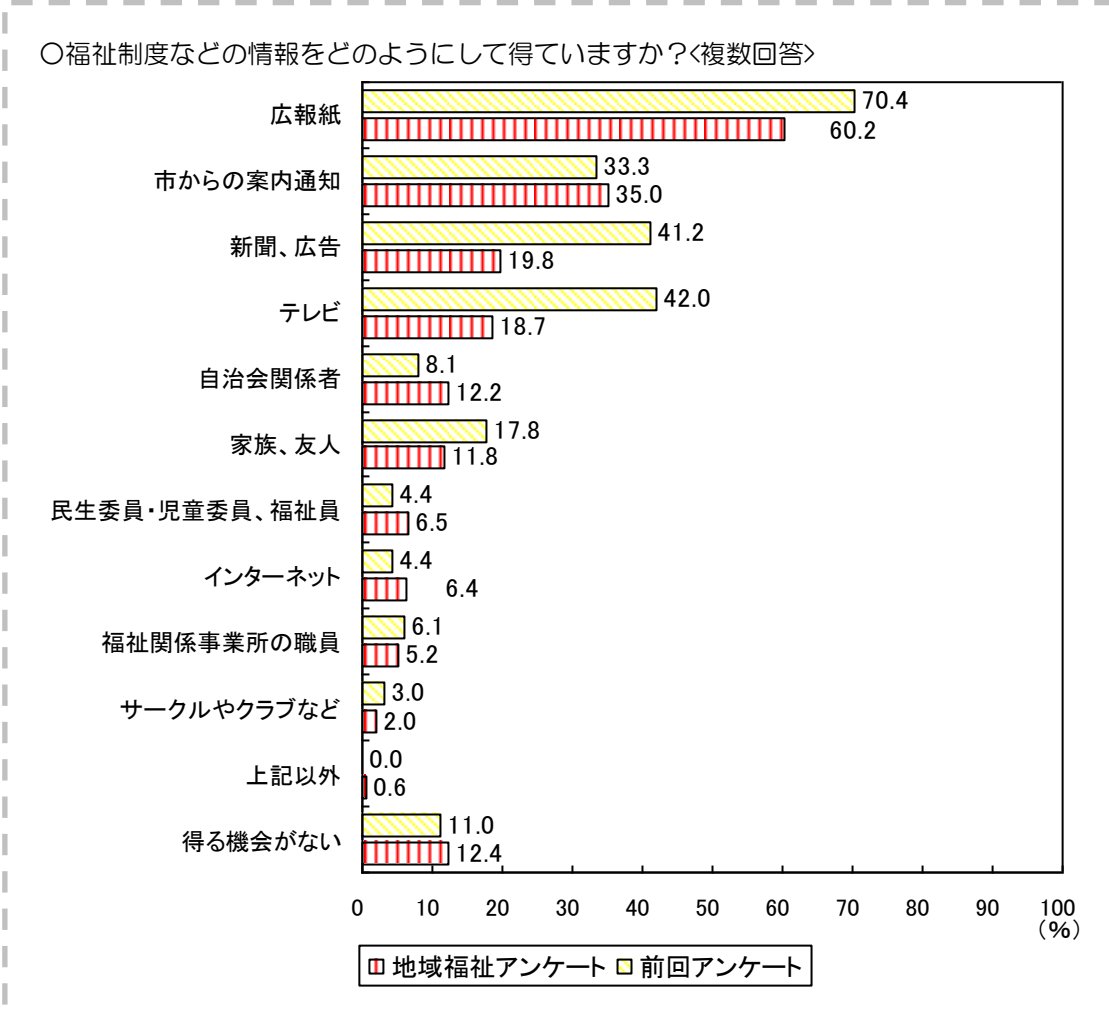
6 福祉に関する情報発信の充実

課題

ICT（情報通信技術）の発展により、パソコンや携帯電話など、様々な媒体により情報を得ることができるようになりましたが、地域福祉アンケートによると、多くの方が福祉に関する情報提供の充実を求めていることがわかりました。

地域福祉アンケートによると、福祉制度などの情報を得る方法について、回答者のうち60.2%の人が、「広報紙」を利用していましたが、平成15（2003）年10月に旧岩国市で実施した調査では、70.4%の人が「広報紙」の利用を回答しており、対象範囲が異なるため一概にはいえませんが、前回調査と比べると利用率が下がっています。また、反対に「ほとんど得る機会がない」と回答した人の割合は増加していました。

地域福祉アンケートより…



対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域の情報や社会福祉に関する情報を日ごろから確認しておきましょう。

- 掲示板や回覧板、広報紙などに目を通し、情報の把握に努めましょう。
- 岩国市ホームページや岩国市地域福祉情報ネットワーク「i-area」、岩国市社会福祉協議会などのホームページを活用してみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域の情報を積極的に発信して、地域の情報の周知を図りましょう。

- 掲示板や回覧板を活用してみましょう。
- 岩国市地域福祉情報ネットワーク「i-area」は、いつでも地域の情報を発信することができます。積極的に利用してみましょう。

○行政が取り組むこと

社会福祉に関する情報を積極的に発信していくことが求められています。すべての市民が情報を得ることができるよう、様々な手段を活用していきます。

また、「i-area」や岩国市障害者情報ネットワーク「ふれあいeタウンいわくに」の情報を充実することで、利用者の増加を図ります。

- 社会福祉制度の情報を「広報いわくに」や地域の回覧板など様々な媒体を活用して発信し、より一層の充実に努めます。
- 「i-area」や「ふれあいeタウンいわくに」などのホームページの普及強化を図ります。
- 地域福祉を推進する団体が「i-area」を利活用できるよう支援を行います。

7 地域の情報の共有

課題

いわゆる「情報化社会」といわれる現代において、個人のプライバシーに関する情報の取扱いについては、どの機関も最大限の注意を払っており、また、市民の関心も高まっています。しかし、最近では地域住民一人一人を支援するために必要な情報であるにも関わらず、その収集や共有が難しくなっています。

地域福祉座談会では、個人情報に関する法律の過剰反応とも思える現象により、地域の活動が縮小しているなどの意見が聞かれました。

地域における生活課題を発見し、解決につなげていくには、関係する団体の情報共有が重要です。個人情報に関する法律の目的を理解し、地域福祉の推進に必要な個人情報が関係する機関と共有していくための方法について考えていくことが必要です。

地域福祉座談会意見より…

- 個人情報保護条例により、以前より行政からの情報が出なくなった。
- 個人情報に関する法律の影響で、地域の活動が縮小しており、人間関係がぎこちなくなっている。それぞれの団体が、必要な情報を共有できるための仕組みが必要。

対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域福祉が進むためには、公益となる必要な情報の共有について理解していくことが必要です。市民一人一人が、地域で必要な情報を共有することの必要性について理解を深めましょう。

- 地域で必要な情報を共有することについて、理解に努めましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域福祉を円滑に進めるため、プライバシーには配慮しつつも、必要な情報について共有していきましょう。

- 地域住民に対し、必要な情報を共有することについて趣旨と必要性を説明し、理解に努めましょう。
- 会合などで地域の公益につながる情報は積極的に提供し、情報の共有に努めましょう。

○行政が取り組むこと

地域に必要な情報を提供していくための仕組みを構築し、情報の共有化を図ります。

- 地域の団体と連携して、情報を共有していくことの必要性について啓発に取り組めます。
- 個人情報に関する法律を遵守しながら地域で必要な情報について共有していくためのハンドブックを作成します。

8 寄附文化の醸成

課題

寄附金は、社会福祉法人やNPO、教育機関などにとって、非常に重要な収入源の一つです。「共同募金」を始め、「緑の募金」や「災害義援金」など様々な種類の募金があり、近年ではインターネットを活用した「クリック募金」など、募金方法についても様々です。

また、「認定NPO法人制度」など、税制上の優遇措置を設けて寄附を促進し、活動の活性化を図る制度もあります。

今後、寄附文化を醸成していくためには、寄附行為が社会貢献につながっていることを認識し、寄附についての理解を深めていくことや、寄附を受けた者についても寄附金の使い方を明確にするなど、社会全体でわかりやすく示していく必要があります。

対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

寄附行為は社会参加の一つで、社会貢献につながります。寄附について理解を深めてみましょう。

- 寄附を通じた社会貢献について理解を深めましょう。
- 共同募金などの募金に協力しましょう。

○地域全体で取り組むこと

募金を通じた社会福祉への貢献について、地域への周知を図りましょう。

- 共同募金などの募金について、地域全体で協力しましょう。
- 寄附の必要性について、地域全体で考えてみましょう。

○行政が取り組むこと

寄附についての啓発を行い、寄附文化の醸成を図ります。また、共同募金への協力を行います。

- 寄附についての理解を深めるための啓発を行います。
- 共同募金などの募金活動について、協力を行います。

9 福祉教育の推進

課 題

福祉教育とは、福祉に関する体験学習や生涯学習などを通じて、日常生活における福祉の重要性を学ぶ、心の教育です。

年齢や障害の有無などに関係なく、地域住民一人一人を大切な仲間として尊重し、一人一人の生活について理解を深めるためには、地域で取り組んでいる活動の目的を理解することや、社会福祉制度を知ることが大切です。

このような点への関心を高めることで、思いやりのある心豊かな人間を育み、地域や社会で自分ができることについて考え、活動していくことにつながるのではないのでしょうか。

そのためには、福祉教育を推進していくことが求められます。学校や地域での体験学習や生涯学習などの機会を通じて、「福祉」とは決して特別なことではなく、一人一人にとって身近な存在であることを認識し、広めていく必要があります。

地域福祉座談会意見より・・

- 故郷を愛し、自分ができることが何かを考えさせるような教育が現状はない。

対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

福祉体験や福祉に関する市民活動講座、イカルス（生涯学習市民講座）などに参加することや、福祉情報の把握に努め、福祉についての関心を高めてみましょう。

- 福祉体験や福祉に関する市民活動講座、イカルスなどに積極的に参加してみましょう。
- 広報紙や新聞にある福祉情報に目を通してみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域で子どもを対象にした福祉体験の機会を提供し、子どもやその家族などに対する福祉への理解促進に努めてみましょう。また、地域で福祉に関するイカルスなどを利用して、福祉に対する関心を高めてみましょう。

- 子どもを対象にした福祉体験を実施してみましょう。
- 福祉に関するイカルスを利用してみましょう。

○行政が取り組むこと

学校を通じた福祉体験や福祉に関する市民活動講座、イカルスなどの促進により、福祉教育の推進を図ります。また、社会福祉制度などのより一層の情報発信に努めます。

- 学校教育などを通じた福祉教育の推進を図ります。
- 福祉に関する市民活動講座やイカルスの実施を促進します。
- 社会福祉制度の情報を「広報いわくに」や地域の回覧板など様々な媒体を活用して発信し、より一層の充実に努めます。

10 権利擁護事業、成年後見制度の普及促進

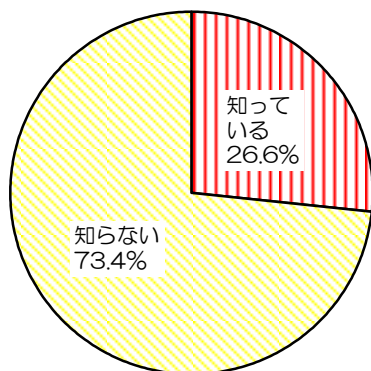
課題

認知症高齢者、障害者、及びその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、日常生活を支援する制度として、地域福祉権利擁護事業及び成年後見制度があります。

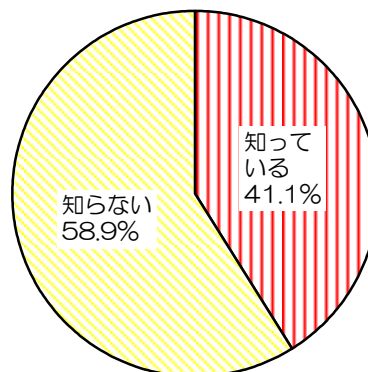
これらの制度は、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理などを、社会福祉協議会、又は成年後見人が本人に代わってお手伝いしてくれる制度で、将来的にもますますその重要性が高まるものと予測されますが、これらの制度に対する認知度は低いものと考えられます。制度を必要とする人が必要な支援を受けられるよう、これまで以上に普及を図る必要があります。

岩国市高齢者保健福祉計画より…

○地域福祉権利擁護事業について



○成年後見制度について



対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域福祉権利擁護事業や成年後見制度は、将来的にその必要性が高まるものと予測されます。制度内容について理解を深めましょう。

- 岩国市や岩国市社会福祉協議会のホームページなどを通じて、制度内容の理解を深めましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域の高齢者などが集まる際に、制度について情報提供に取り組みましょう。

- サロンなど高齢者が集まる場所で、制度について情報を提供してみましょう。
- 制度利用が必要と思われる人について、行政機関に報告しましょう。

○行政が取り組むこと

制度の認知度を高めるための普及啓発に取り組み、制度が必要な人に対する利用促進を図ります。

- 広報紙や相談支援の場などで、制度の普及啓発を図ります。
- 親族からの成年後見申立ての支援や、申立てする親族がない場合などの市長申立てを行います。

11 ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮したまちづくり

課題

年齢や障害の有無など関係なく、だれもが安心した生活を送るためには、だれもが利用できる生活環境を整備することが重要です。

ユニバーサルデザインとは、始めからなるべく多くの人が安全で快適に利用できるよう配慮している製品、建造物及び空間のことで、近年では、あらゆる所でユニバーサルデザインに配慮した製品や建造物などを見ることができます。

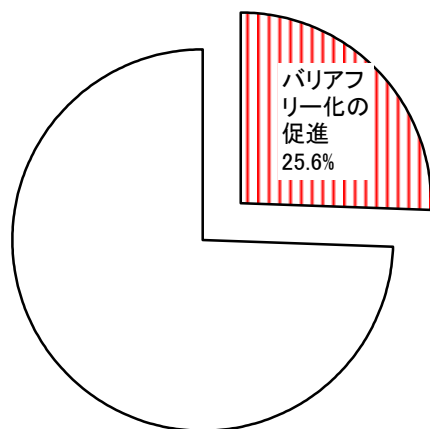
また、バリアフリーとは、主に障害者や高齢者などが日常生活を送るうえで不便を感じないよう障害を取り除いていくことで、段差のない道路や床、スロープ、点字ブロックなどが挙げられます。

地域福祉アンケートをみると、公共施設のバリアフリー化の促進を求める声が多いことがわかります。

山口県では、「やまぐちユニバーサルデザイン実行計画」に基づいてユニバーサルデザインの取り組みを推進しています。岩国市においても、今後は、市民一人一人の日常生活の中に、ユニバーサルデザインやバリアフリーの考え方が取り入れられ、家庭や地域で実践されるよう普及啓発していく必要があります。

地域福祉アンケートより…

○重要と思う岩国市の取り組み



対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

ユニバーサルデザインやバリアフリーに対する理解を深め、日常生活において配慮してみましょう。また、心のバリアフリーを心掛けましょう。

- ユニバーサルデザインやバリアフリーに関する研修会などに参加してみましょう。
- 日常生活においても、ユニバーサルデザインやバリアフリーを反映してみましょう。
- 困っている人がいたら手伝ってあげるなど、人を思いやる気持ちを持ちましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域内でユニバーサルデザインやバリアフリーが必要な箇所について検証し、地域のまちづくりに反映していきましょう。また、地域全体で心のバリアフリーの促進に努めましょう。

- 地域で不便な箇所などについて把握し、検証してみましょう。
- 改善が必要な箇所について、関係機関に連絡していきましょう。
- 地域全体で、心のバリアフリーを心掛けましょう。

○行政が取り組むこと

公共施設などにおいて、ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを行い、バリアフリーが必要な箇所については、バリアフリー化を進めていきます。

- 公共施設などにおいて、点字ブロックや段差解消などの整備を行います。
- 民間施設の指導、啓発を行います。
- 障害のある人が地域生活の移行が円滑に進むよう、市民の障害に対する正しい理解を促進します。

12 災害時要援護者の支援体制

課題

「災害時要援護者」とは、災害に対処するにあたって、心身障害者や体力的に衰えのある高齢者、妊産婦など、何らかの障害を持つことにより援護を必要とする者を意味します。

岩国市では、災害による被害を最小限に抑えるため、災害時要援護者の把握や地域の自主防災組織の設置を進めるなど、避難支援体制の構築を進めています。

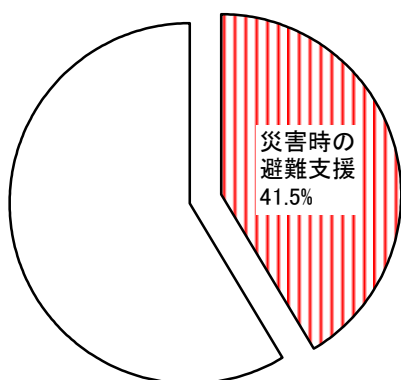
地域福祉座談会においても、災害時の避難体制についての関心が高く、多くの意見が寄せられました。また、地域福祉アンケートでも同様に、早急に避難支援体制の整備を進めることを求めていることがわかります。

地域福祉座談会意見より…

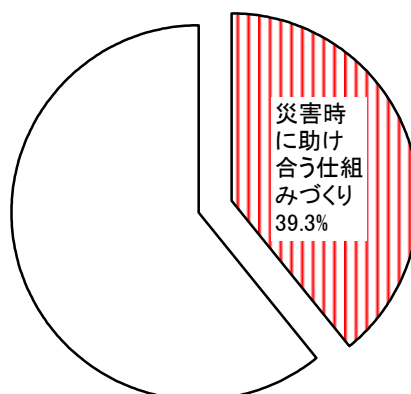
- 要援護者名簿登録の同意が得られない。
- 災害時には電話で安否確認をしている。
- 何人かで一緒に避難行動できれば心細くなくてよい。

地域福祉アンケートより…

○地域で住み続けるために、あればいいと思う地域の手助け



○重要と思う岩国市の取り組み



対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

一人一人が災害に対する意識を高めていくことが重要です。そのためにも、日ごろから災害に対する事前準備しておきましょう。

- 隣近所で要援護が必要な人について、日ごろから把握しましょう。
- 避難時に特別な配慮が必要な人は、事前に地域の人に伝えておきましょう。
- 災害時要援護者の登録対象者は、趣旨を理解のうえ登録しましょう。
- 「岩国市防災メール」に事前に登録しておきましょう。
- 地域で取り組む防災訓練などに積極的に参加しましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域で自主防災組織などを立ち上げ、災害に対する避難支援体制などを整備しておきましょう。

- 地域で自主防災組織を立ち上げましょう。
- 地域で要支援や特別な配慮が必要な人について、日ごろから把握しておきましょう。
- 地域で定期的に防災訓練などを実施しましょう。

○行政が取り組むこと

地域の自主防災組織の設置を支援し、防災に対する意識啓発を図ります。また、災害復旧時などの災害ボランティアの登録者の増加を図ります。

- 岩国市全域で自主防災組織の設置を支援します。
- 災害時要援護者の登録を進めていきます。
- 「岩国市防災メール」の登録者数を増やします。
- 岩国市社会福祉協議会が取り組む災害ボランティアの登録を支援します。

基本目標2「地域福祉を推進するための地域資源の開拓」

1 地域福祉の担い手の育成

課題

地域福祉座談会では、主に地域福祉に取り組んでいる人から、「世代交代が難しい。」「担い手がない。」などの声が多く聞かれました。高齢化が進行している近年において、地域のことを考えて地域福祉を主導することができる人材、いわゆる「担い手」を育成していくことは重要な課題です。

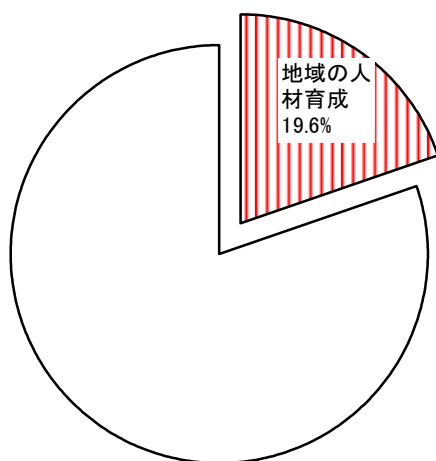
現状では、一人の担い手が役員を兼務しており、負担が大きくなっているなどの状態がみられます。地域福祉に取り組むうえで、担い手の存在は欠かすことができません。

地域福祉座談会意見より…

- 役員が高齢化している。若い世代の担い手がない。
- 人材の育成が重要。
- 自分が先頭に立って人の世話をしたくない人が多い。

地域福祉アンケートより…

○重要と思う岩国市の取り組み



対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域福祉の必要性について理解を深めるよう努めましょう。また、担い手の負担を軽くしてあげることが必要です。住民一人一人が積極的に支えていきましょう。

- 地域福祉をテーマとした講演会に参加してみましょう。
- 一人一人が持っている知識や技術を地域活動に生かしてみましょう。
- 地域活動に参加し、担い手の意見を尊重しましょう。
- 一人一人が担い手の負担を軽くできるよう手伝いましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域の担い手となり得る人は地域にたくさんいます。そのような人を地域全体で支えながら、地域福祉の人材として取り込んでいきましょう。

- 経験豊富で活力がある人を地域の担い手として活用してみましょう。
- 地域の行事などの際は、地域の担い手となり得る人の意見を尊重しながら取り込んでいきましょう。
- 地域の担い手の発掘に努めましょう。

○行政が取り組むこと

地域福祉に携わる担い手の質の向上を目的とした人材育成を支援します。

- 地域福祉の人材育成を目的とした研修会を開催します。
- 地域福祉の実践者の経験を生かした人材育成支援に取り組みます。

2 高齢者や定年退職者の社会参加の促進

課題

地域には、社会経験や知識が豊富で、十分な気力及び体力を備えた高齢者や定年退職を迎えた人が数多く生活しています。そのような人たちには「地域に貢献したい」と思っている人も多数おり、実際に地域で活動している人は生きがいにつながり、活力になっています。

地域福祉座談会では、そのような高齢者や定年退職者を地域の人材として取り込みたいという意見が多く聞かれました。地域福祉への参加が、地域への大きな支えになるだけでなく、自分自身の生きがいづくりにつながります。

地域福祉座談会意見より・・

- 元気な高齢者をつくるにはどうすればいいのかを地域で考えたい。
- 定年退職した人は帰郷して地域を支えてほしい。
- 定年退職した人には、地域活動の参加に声かけしてみる。

対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

いつまでも活力のある状態を保つため、健康づくりや生きがい活動に参加してみましょう。また、隣近所の人と誘い合ってみましょう。

- 健康づくりや生きがい活動に参加してみましょう。
- 隣近所の高齢者や定年退職者を地域活動に誘ってみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域で生活している高齢者や定年退職者に声をかけ、地域活動に取り込んでいきましょう。

- 高齢者や定年退職者に声かけをしてみましょう。
- 地域の担い手につながる人材です。意見を尊重して、地域福祉に取り込んでみましょう。

○行政が取り組むこと

高齢者や定年退職者を対象に、新たな人生設計への支援を行い、地域への貢献を図ります。

- 高齢者や定年退職者を対象に、地域貢献を通じた生きがいづくりを目的とする取り組みを行います。
- ボランティアセンターを活用した相談体制の充実に取り組みます。

3 ボランティアへの参加の促進

課 題

ボランティアとは、人や社会のために、個人の自由な意思に基づいて行われる自発的な行為を意味します。

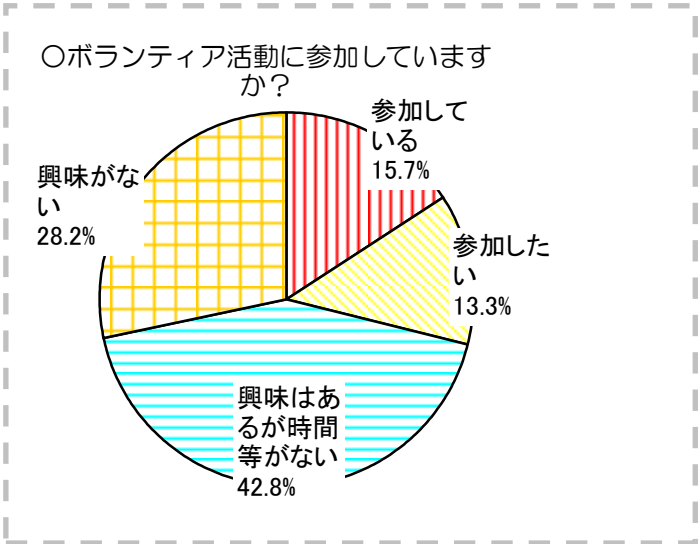
平成7（1995）年に起きた阪神・淡路大震災をきっかけに、ボランティア活動に対する重要性が広く認識されました。岩国市においても、平成17（2005）年の台風14号による復旧作業では、市内外から多くのボランティアの協力があり、その重要性について改めて認識させられたところです。

地域福祉座談会では、災害時だけでなく、地域でボランティア参加による様々な取り組みが行われていることがわかりました。しかし、地域福祉アンケートを見ると、時間が取れないなどの理由により、ボランティアに興味がありながらできない人も多くいることがわかります。

地域福祉座談会意見より・・・

- ボランティアで荒地だった場所に花壇を整備した。
- 地域にある高齢者福祉施設のイベントでは、地域住民や学校の子どもがボランティアで手伝っている。
- ボランティアに参加したくても参加できない。

地域福祉アンケートより・・・



対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

ボランティアに対する理解を深め、自分ができる範囲でボランティアに参加してみましょう。

- 市民活動講座などに参加し、ボランティアに対する理解を深めてみましょう。
- 岩国市社会福祉協議会のボランティアセンターに登録してみましょう。
- 自分ができるボランティア活動に参加してみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域住民だけで取り組むことが難しい場合などにおいて、ボランティアを活用していくことが一つの有効な解決策になります。様々な方法により募集を呼びかけてみましょう。

- 様々な方法によりボランティアの募集を呼びかけてみましょう。

○行政が取り組むこと

ボランティア活動に取り組みやすい環境の整備に努め、地域活動などへの促進を図ります。

- ボランティアセンターを活用したボランティア参加の促進に取り組みます。
- ボランティアセンターを活用して、ボランティアの人材育成を支援します。
- ボランティア休暇の促進に努めます。

4 地域内の交流の促進

課題

地域住民の中には、地域との接点が少なく、なかなか地域の人と溶け込む機会ができない人が存在します。

だれもが孤立することなく安心して暮らすことができるようになるには、お互いの顔が見える関係を築くことが重要ですが、そのためには、気軽に参加できる機会が地域で提供され、それをきっかけとして交流できるような仕組みが必要です。

地域福祉座談会では、健康づくりや料理教室を企画して、地域の人を集めているなどの意見が聞かれました。

地域福祉座談会意見より…

- 女性にはエステ、男性には料理教室、健康体操などを企画すれば人は集まる。
- 休校中の学校に「婦人の集い」で集まって、小物作りや料理などを行いながら情報交換している。

対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域にはサロンなど地域住民の交流を図る企画が行われています。参加する人は新たな仲間ができることを楽しみにしています。地域住民一人一人が誘い合って参加してみましょう。

- 地域の交流活動に気軽な気持ちで参加してみましょう。
- 地域の交流活動に隣近所の人を誘ってみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域の交流行事は、地域住民が顔を合わすことができる場として重要な役割を担っています。多くの人に参加してもらうために積極的な広報活動を行ってみましょう。

- 回覧板や「i-area」などを活用して地域に積極的に広報しましょう。
- 子どもと高齢者を対象とした世代間交流など、様々な交流の場を企画してみましょう。
- 地域住民が顔を合わせることができる機会を増やしてみましょう。

○行政が取り組むこと

地域の交流行事について広報するとともに、地域の交流を図る企画について支援を図り、地域住民同士が顔を合わせることができる機会を増やします。

- 「i-area」を利用して積極的な広報活動を行います。
- 岩国市地域福祉基金を活用して、地域の交流機会の増加を図ります。

5 地域間交流の促進

課題

地域福祉は地域住民が主体となって取り組むことではありますが、主に小規模・高齢化集落などにおいて、地域住民による地域活動の継続が難しくなっている現状もみられます。地域福祉座談会では、人口の減少と高齢化により、将来に不安を感じている住民の声が多く聞かれました。

そのような場合に、近隣の地区などと協力し、地域間での相互扶助により地域活動を支えていくことも一つの解決策になります。地域間による住民との交流を通じてふれあうことで、地域間のつながりが生まれ、それぞれの地域の活性化が図られます。

今後、地域間での連携を促進し、地域住民同士の交流の活性化を図ることで、地域福祉の活性化にもつなげていくことが求められます。

地域福祉座談会意見より・・

- 地域住民による相互扶助が求められているが、このままだと地域だけでは支えられなくなる時が来る。
- 地域だけで取り組むには限界がある。
- 広域での社会参加や交流が必要だと思う。

対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域間交流に積極的に参加し、お互いが協力して地域福祉に取り組むことが求められます。また、地域間の交流を深めてみましょう。

- 地域間交流に積極的に参加し、地域間の交流を深めてみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域間交流を積極的に行い、地域間のつながりを深めることで、地域福祉の活性化を図ってみましょう。

- 地域間の交流を目的として、企画してみましょう。
- 地域同士の相互扶助により、地域福祉に取り組んでみましょう。

○行政が取り組むこと

地域間交流に取り組むための啓発と支援を行い、地域間交流の促進を図ります。

- 地域間の交流の機会を促進するため、交流会を開催します。
- 地域間交流の促進について啓発を行います。
- 岩国市地域福祉基金などを活用して、地域間交流を目的とした活動の支援を行います。

6 学校と地域との連携促進

課題

市内には、地域の人が地元の小学校の運動会と一緒に参加したり、地域の清掃活動に学校がボランティアで参加したりするなど、学校と地域が連携して、様々な取り組みが行われています。

学校と地域との連携が進むことにより、子どもの健やかな成長を図ることができるとともに、世代間交流などによる地域コミュニティづくりを図ることができます。

地域福祉座談会では、様々な活動事例を聞くことができました。現在、学校と地域が連携して取り組んでいる活動がきっかけとなって、更に地域福祉の推進を図る活動につながっていくことが重要です。

地域福祉座談会意見より…

- 学校と連携して、自治会長たちと一緒に見守りボランティアを実施している。
- 学校の安全ボランティア活動を登下校時に実施している。そのおかげで犯罪も少ない。
- 子どもの数が減ってきており、学校行事に苦労している。
- 学校のボランティアや、地域の生徒を教育する先生を作ろうと動いている。

対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

学校行事などに積極的に参加することは、子どもの成長を見届けるだけでなく、地域住民にとっても大きな活力になります。

- 学校行事に参加してみましょう。
- 子どもが頑張っている姿を見てあげましょう。

○地域全体で取り組むこと

学校と地域の連携が進むことは、より貴重な経験を積む機会が増えることで子どもの成長につながります。それぞれの行事において積極的に連携を図りましょう。

- 子どもを対象にした体験学習を開催し、直接体験できる機会を増やしてあげましょう。
- 子どもと高齢者を対象とした交流企画など、様々な交流の場を企画してみましょう。

○行政が取り組むこと

学校と地域との連携した取り組みを支援します。また、子どもの健全育成を促進します。

- 学校教育を通じた地域福祉の推進を図ります。
- 空き教室などの活用を図ります。
- 子どもを犯罪などの被害から守るための活動を促進します。
- 岩国市地域福祉基金を活用して、学校と地域の連携を促進します。

7 空き家や社会福祉施設などを活用した拠点の整備

課題

地域福祉座談会では、地域福祉の活動場所に関する意見が多く聞かれました。

地域活動を進めるうえで、その活動の拠点となる場所についてはまだまだ地域によっては不足しているといえます。しかし、近年の財政状況を考えると、不足している地域すべてに新たな施設を建てることは簡単なことではありません。

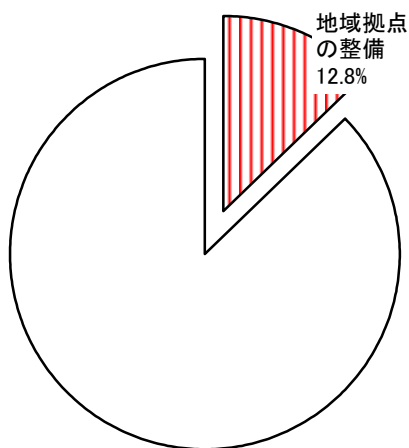
そのような状況において、空き家や社会福祉施設などの施設を多面的な活動場所として活用していくことが考えられます。現在、空き家や社会福祉施設を地域福祉の拠点として利用している地域もあるように、地域の資源をうまく活用していくことが求められます。

地域福祉座談会意見より…

- 制約を受けず多目的に使える場所が必要。
- 集まれる場所が公民館しかない。
- 高齢者が集まる場所が少ないため、なかなか人が集まらない。
- 高齢者福祉施設を地域の様々な活動に利用することができ、助かっている。

地域福祉アンケートより…

○重要と思う岩国市の取り組み



対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

空き家や社会福祉施設の事業者など、地域で活動できる場所を探してみましょう。

- 空き家や社会福祉施設など、地域で活動できる場所について探してみましょう。
- 小規模人数の集まりであれば、自宅を利用することについても検討してみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域にある社会福祉施設などと、地域福祉の活動場所としての利用について話し合ってみましょう。また、事業者についても、できる限り地域に開放し、地域との連携を深めていくよう努めてみましょう。

- 社会福祉施設を活動場所として利用できるよう、事業者と話し合ってみましょう。
- 地域のイベントなどの際は、事業者はなるべく施設を開放するよう努めましょう。

○行政が取り組むこと

岩国市が所管する施設について、制限の緩和に努め、なるべく多くの人が利用できるよう努めます。また、自治会館などの地域拠点を整備します。

- 岩国市が所管する施設について、だれもが利用しやすくなるよう検討していきます。
- 福祉会館について、利用しやすいよう環境を整備します。
- 自治会館やコミュニティセンターなどの地域拠点を整備します。

8 地域の子どもを地域全体で育てる環境づくり

課題

核家族化や少子化の進行を背景に、かつての子どもが地域で体験してきた様々な社会体験の機会が失われつつあります。また、地域の子どもと積極的に関わる大人が少なくなったことによる地域の教育力の低下を指摘する声も聞かれます。

地域福祉座談会では、岩国市の場合は、どの地域でも子どもが地域全体で支えられている現状を聞くことができました。

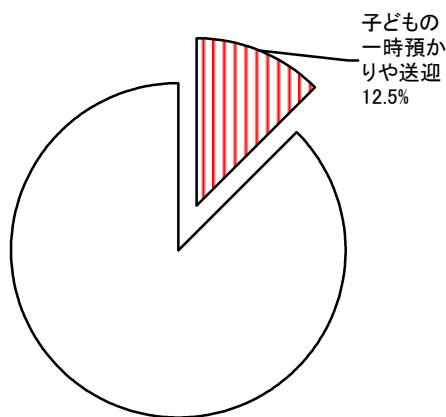
今後も、引き続き子どもが地域の中で健やかに育まれるよう、社会体験の機会を増やし、地域住民が見守っていく環境づくりに取り組んでいく必要があります。

地域福祉座談会意見より…

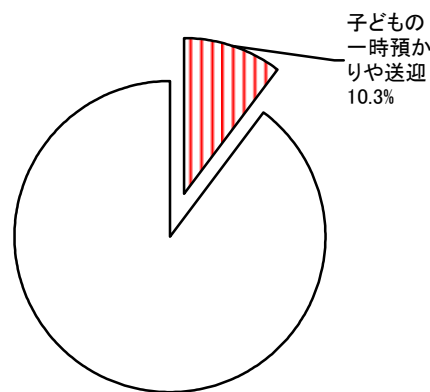
- 子どもが地域の人に支えられていると感じる。
- 子どもでは補えないものを、地域全体で補っている。
- 地域の子どもはあいさつをよくする。純粹で素直な子に育てている。
- 地域全体で子どもを大切にし、成長を見守ってくれている。

地域福祉アンケートより…

○地域で住み続けるために、あればいいと思う地域の手助け



○地域で困っている人に対して、自分ができること



対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域の子どもの成長を見守ってあげることが重要です。そのためにも、子どもに関心の目を向けてみましょう。

- あいさつを心掛けましょう
- 良いことをすれば褒めてあげましょう。悪いことをしていれば注意しましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域の子どもが地域に愛着を持ってもらえるよう、環境づくりに努めましょう。

- 地域の子どもに、地域の歴史や文化、良い所を教えてあげましょう。
- 福祉に関するイカルスを利用してみましょう。
- 地域での学習活動を積極的に支援して、地域で子どもを育てる機運を高めましょう。

○行政が取り組むこと

子どもの健全な成長を図ることを目的とした、安全確保などの整備に取り組みます。また、地域に愛着を持ってもらえるよう、環境保全や整備に取り組みます。

- 安全で安心して学校に通える環境づくりに取り組みます。
- 郷土の歴史や伝統、文化を後世に伝えるための環境整備、後継者育成を行います。

9 交通弱者の支援

課題

地域福祉座談会で、主に高齢化率の高い地域でよく聞かれた意見の一つに、高齢者の交通手段に関する意見がありました。

高齢者においては、バスや鉄道などの公共交通機関を利用している人は多いと考えられますが、現状では、集落から鉄道駅やバス停までの距離が離れているなど、公共交通の利用が不便な地域があります。

主に高齢化率の高い集落では、買物ができる店や病院が集落にない場合が多いため、日常生活で不便が生じています。

地域福祉座談会意見より・・

- バス停から離れた集落の高齢者の通院が困難。
- バスが主要道路しか走らないので、バス停まで行くことに苦労している。
- 目的は違うが行く場所が同じであれば、みんなで声をかけて乗り合わせで行く。

対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

一人一人が協力し、同じ方向であれば乗り合わせるなど心掛けてみましょう。

- なるべく乗り合わせて行くよう心掛けてみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域で公共交通の利用が困難な箇所について、対策を考えてみましょう。

- 地域で交通弱者に対する対策について考えてみましょう。

○行政が取り組むこと

岩国市地域公共交通総合連携計画に基づいて、地域に合った公共交通施策に取り組めます。また、地域が主体となって考える交通対策について支援を行います。

- 地域にあった移動サービスを検討し、利用者の増加を図ります。
- 地域が主体となって取り組もうとする交通対策について、支援を行います。

基本目標3「地域福祉の推進に取り組む団体への支援」

1 岩国市社会福祉協議会の活動支援

課題

岩国市社会福祉協議会は、岩国市全域で地域福祉の推進を図ることを目的とする民間団体です。

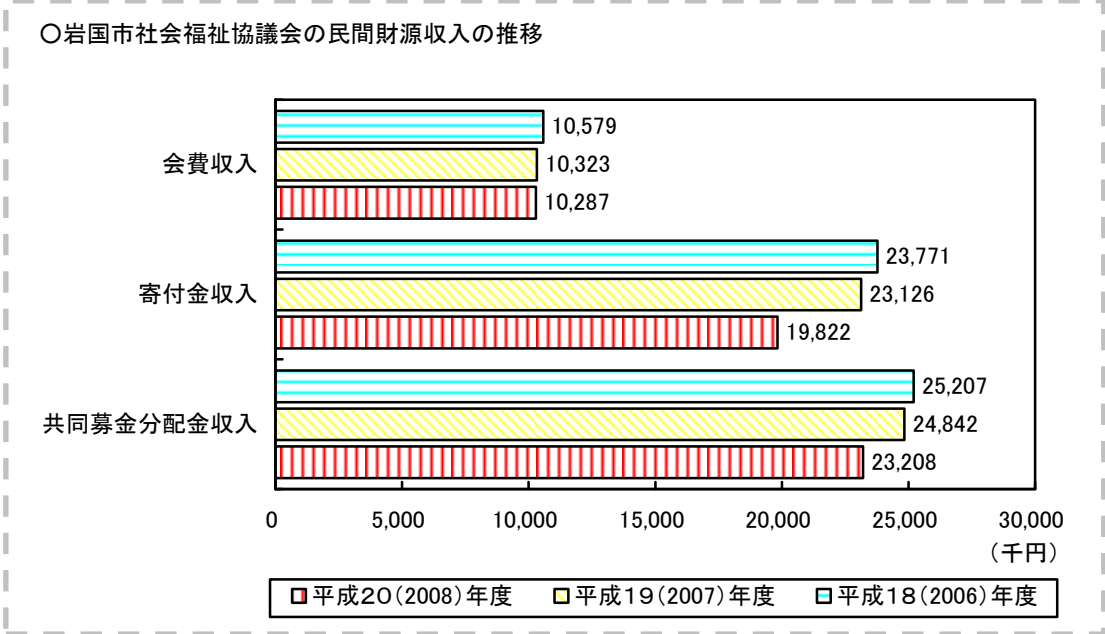
また、地区社会福祉協議会などの地域団体やボランティアグループの活動支援にも取り組んでおり、岩国市における地域福祉推進の活動の先頭に立つ団体です。

岩国市社会福祉協議会では、民間サイドからの福祉のまちづくりを進めるための地域福祉活動及び行動を示す、「岩国市地域福祉活動計画」を平成22（2010）年度からスタートすることとしています。

しかし、平成18（2006）年度から平成20（2008）年度にかけての収入財源のうち、民間財源収入の推移をみると、減少傾向にあることがわかります。

これらの収入は、岩国市社会福祉協議会の本来業務である地域福祉の推進に欠かすことのできない収入であり、今後、岩国市社会福祉協議会の更なる経営努力が必要であることはもちろんですが、岩国市全体で岩国市社会福祉協議会の活動を支援していくことも重要です。

岩国市社会福祉協議会の決算資料より…



対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

岩国市社会福祉協議会が取り組む活動に参加してみましょう。

- 岩国市社会福祉協議会の活動内容について理解しましょう。
- 岩国市社会福祉協議会会員に登録して、社会福祉協議会の取り組みに参加してみましょう。
- 岩国市社会福祉協議会のボランティアセンターに登録してみましょう。
- 共同募金に協力しましょう。

○地域全体で取り組むこと

岩国市社会福祉協議会が取り組む活動に地域全体で協力していきましょう。

- 岩国市社会福祉協議会と連携し、地域福祉の取り組み強化を図りましょう。
- 共同募金の協力について、周知を図りましょう。

○行政が取り組むこと

岩国市社会福祉協議会の本来の目的である地域福祉の推進を図っていただけるよう支援していきます。また、地域福祉施策について、今まで以上に連携を図ります。

- 岩国市社会福祉協議会の事業を支援することにより、社会福祉協議会の本来の目的である地域福祉の推進を図ります。

2 地区社会福祉協議会など地域福祉に取り組む団体の活動支援

課 題

岩国地域の22地区では、自治会や民生委員・児童委員など関係する地元団体が集まって組織された地区社会福祉協議会が、地区の地域福祉活動に取り組んでいます。

地区の地元団体と連携していることで地区社会福祉協議会の活動は幅広く、地域福祉の中心団体として福祉によるまちづくりに取り組んでいます。

今後は、地域福祉の更なる活動充実を図ることや、地区社会福祉協議会のような性格をもつ組織がない地区については、地区の中心となって地域福祉を推進する組織の設立を支援していく必要があります。

地域福祉座談会意見より・・

- 福祉だけでなく、祭り、防犯、清掃などの活動もしている。
- 助成に対して何か考えてほしい。
- 行事を通じて「ふれあい」を大切にしていきたい。
- 地区社会福祉協議会を中心とした活動体制の整備をしっかりと行って、サロンや自治会活動などを充実させていくことが大切。
- 旧郡部でも地区社会福祉協議会のような体制を整備することが必要。

対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地区社会福祉協議会など地域福祉に取り組む団体は、地域住民にとって、最も身近な生活圏域で福祉によるまちづくりに取り組む団体です。住民一人一人が地域とのふれあいを大切にし、活動に協力しましょう。

- 地区社会福祉協議会など地域福祉に取り組む団体の活動内容について知りましょう。
- 地区社会福祉協議会などの団体が取り組む地域福祉活動に積極的に参加しましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域住民の参加を図り、活動を盛り上げましょう。また、地域福祉に取り組む団体が組織化されていない地域においては、地区社会福祉協議会などの地域福祉に取り組む団体を設立しましょう。

- 積極的な広報活動により地域住民の参加を促進しましょう。
- 地域福祉に取り組む団体の設立を考えてみましょう。

○行政が取り組むこと

地域福祉の取り組みについて支援を行います。また、地域福祉に取り組む団体が組織化されていない地域においては、地区社会福祉協議会などの地域福祉に取り組む団体の設立を支援します。

- 岩国市地域福祉基金を活用して、地域福祉の活動費に対する支援を行います。
- 地域福祉を担う人材の育成支援に取り組みます。
- 全市域で、地区社会福祉協議会のような地域福祉に取り組む団体の設立を支援します。

3 自治会の活動支援

課題

少子高齢化や核家族化が進み、価値観が多様化している現在、自治会加入率は減少傾向にあります。自治会自体は任意団体のため、加入を強制できるものではありませんが、地域コミュニティが活性化し、住民同士が協力して住みよいまちづくりを進めていくためには、自治会活動の活性化は重要な課題であり、地域全体で自治会活動を支えていくことが必要になります。

また、都市部では若い世代の参加が少ないため、自治会活動の継続が難しいなどの問題がありますが、小規模・高齢化集落の多い中山間地域では、人数が少ないために自治会活動の継続が難しいなど、同じ課題でも地域の状況によって事情が異なります。

地域福祉座談会意見より・・

- 自治会に入らない人が多い。
- 自治会役員の高齢化により活動が縮小している。
- 小規模・高齢化集落で自治会活動が難しい。

対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

自治会活動は、地域の親睦を図る場として最適な場所です。隣近所で誘うなどにより、気軽な気持ちで地域活動に参加してみましょう。

- 自治会に加入し、自治会活動に参加してみましょう。
- 自治会活動に家族や隣近所の住民と誘い合ってみましょう。

○地域全体で取り組むこと

自治会への加入促進について、地域全体で取り組んでいきましょう。また、自治会活動が促進される方法について考えてみましょう。

- 地域全体で地域住民への加入促進に取り組みましょう。
- 小規模・高齢化集落などで活動が難しい集落については、近くの集落と協力してみましょう。

○行政が取り組むこと

自治会への加入促進の啓発を行います。また、小規模・高齢化集落など活動が難しくなっている地区について、一緒になって対策を検討します。

- 転居者や転入者に対し、自治会加入促進のチラシを配布します。
- 広報紙などで自治会の加入について啓発を行います。
- 活動が難しくなっている地区について、対策を検討します。

4 民生委員・児童委員及び福祉員の活動支援

課 題

価値観の多様化などに伴う地域とのつながりの希薄化は、民生委員・児童委員及び福祉員のなり手不足にも影響しています。

また、民生委員・児童委員については、行政の協力機関として位置付けられていることから、行政から様々な協力依頼を受けて活動しています。しかし、それにより活動内容が多岐にわたっているため、負担が大きくなっているなどの意見も聞かれました。

ほかにも、民生委員・児童委員及び福祉員の活動が地域住民に理解されていないとの意見も聞かれました。

民生委員・児童委員及び福祉員のなり手不足は、そのような状況にも原因があることも考えられます。

民生委員・児童委員及び福祉員は地域に根付いて相談支援活動などを行う組織として、非常に重要な役割をもっています。今後は、より地域住民とともに活動しやすい環境を支援していく必要があります。

地域福祉座談会意見より・・

- 民生委員・児童委員のなり手が減っている。働きやすいようにしてほしい。
- 活動内容が多岐にわたっていて負担が大きい。
- 民生委員・児童委員、福祉員などの連携が取れていない。
- 民生委員・児童委員及び福祉員になったら、知らない高齢者が多く、活動を受け入れてもらうことが難しい。

対応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

民生委員・児童委員及び福祉員がだれなのか把握しておきましょう。また、民生委員・児童委員及び福祉員の仕事は、地域住民の協力によって負担が大きく変わります。その取り組みを理解し、一人一人が協力していきましょう。

- 自分の地区の民生委員・児童委員及び福祉員を知っておきましょう。
- 民生委員・児童委員及び福祉員の取り組みについて理解し、協力しましょう。

○地域全体で取り組むこと

民生委員・児童委員及び福祉員の取り組みを地域全体で支援していくことが求められます。地域全体で支援し、地域で働きやすい環境づくりに取り組みましょう。

- 民生委員・児童委員及び福祉員の取り組みについて、地域全体で協力していきましょう。

○行政が取り組むこと

民生委員・児童委員及び福祉員の活動について、理解を深めるための啓発を行います。また、研修や勉強会などを通じてスキルアップを図るとともに、働きやすい環境づくりに取り組みます。

- 民生委員・児童委員及び福祉員の活動について、広報紙などを利用して啓発を行います。
- 研修などにより、民生委員・児童委員及び福祉員のスキルアップを図ります。
- 民生委員・児童委員及び福祉員が働きやすい環境づくりについて、支援を行います。

5 NPO や市民活動団体の活動支援

課題

NPO や、ボランティア活動などに取り組む市民活動団体は、その特性を生かした様々な社会貢献活動やサービスを行っています。また、地域や生活の場に密着した課題や地域住民の生の声を踏まえて、問題提起も行っています。行政機関がなかなか手の届かない生活圏域に対しても柔軟な活動を展開できるこれらの団体は、岩国市にとってますます大きな役割を担ってきています。

「NPO」や「市民活動」という名前を聞くと、まだまだ抱いているイメージに差があるかも知れません。今後、これらの団体の自主的で自発的な行動が、地域の課題に対しても大きな力を発揮できるよう活動を支援するとともに、「NPO」や「市民活動」についての理解を深めていくことが必要です。

対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

NPO や市民活動団体について理解を深めてみましょう。その上で、地域で活動する市民活動団体などの取り組みに参加してみましょう。

- NPO や市民活動団体が発信する情報を把握してみましょう。
- 市民活動講座に参加してみましょう。

○地域全体で取り組むこと

地域福祉に取り組む NPO や市民活動団体の取り組みについて理解を深め、協力していくことが求められます。

- NPO や市民活動団体の取り組みについて、地域全体で協力して取り組みましょう。

○行政が取り組むこと

市民活動の充実を図り、地域福祉に取り組む NPO や市民活動団体を支援します。

- 市民活動を推進する組織体制を整備し、市民活動の充実を図ります。
- 岩国市地域福祉基金を活用して、市民活動の支援を行います。
- NPO や市民活動団体との協働を推進します。

6 サロンの活動支援

課題

サロンは主に高齢者の生きがいや健康づくりなどの活動の場を提供し、地域における高齢者及び地域住民の「仲間づくり」「出会いの場づくり」など、交流を促進することを目的として設置されています。

地域福祉座談会では、活動内容の充実などに関する意見が聞かれました。また、参加者の確保や後継者の育成など、運営に関する課題もあります。

今後も、元気な高齢者が増えるよう、地域のサロン活動の更なる充実を支援していくことが必要です。

地域福祉座談会意見より・・・

- サロンに参加する人はみな元気で顔見知りである。
- サロン活動の充実は地域の充実につながると思う。
- サロンの内容がマンネリ化している。
- サロンの内容は担い手の力量にかかっており、企画の負担が大きい。
- サロンで健康チェックを実施している。関心のない人にも、定期的に取り組んで普及させたい。
- サロン交流会を開催して情報交換をしてみたい。

対 応

○住民一人一人が心掛けること、又は取り組むこと

地域の交流の場として、サロン活動に参加してみましょ。また、サロンではいろいろな企画が行われています。サロン活動を盛り上げるために、企画を提案してみましょ。

- サロン活動に気軽に参加してみましょ。
- サロン活動に隣近所の人を誘ってみましょ。
- 企画を提案してみましょ。

○地域全体で取り組むこと

地域でサロン活動への参加の促進を図りましょ。また、サロンの担い手育成について、地域全体で考えていきましょ。

- 掲示板や回覧板などにより、サロン活動への参加を促進してみましょ。
- サロンの担い手について、地域全体で考えてみましょ。

○行政が取り組むこと

高齢者がサロン活動を通じて取り組む健康づくりや介護予防及び生きがいづくりを支援することにより、サロン活動の充実と元気な高齢者の増加を図りましょ。

- 福祉に関するイカルスの利用を促進します。
- ふれあい補償制度の充実を図りましょ。